

2008（平成20）年度 大学基礎データ

日本赤十字九州国際看護大学

目 次

	頁
I 教育研究組織	
1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2008年4月1日現在）（表1） （表2）削除	1
II 教育内容・方法等	
1 開設授業科目における専兼比率（表3）	2
2 単位互換協定に基づく単位認定の状況（表4）	3
3 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況（表5）	4
4 卒業判定（表6）	5
5 大学院における学位授与状況（表7）	6
6 就職・大学院進学状況（表8）	7
7 国家試験合格率（表9）	8
8 公開講座の開設状況（表10）	9
9 国別国際交流協定締結先機関（表11）	10
10 人的国際学術研究交流（表12）	11
III 学生の受け入れ	
1 学部・学科の志願者・合格者・入学者の推移（表13）	12
2 学部・学科の学生定員及び在籍学生数（表14）	14
3 学部の入学者の構成（表15）	15
4 学部の社会人学生・留学生・帰国生徒数（表16）	16
5 学部・学科の退学者数（表17）	17
6 大学院研究科の学生定員及び在籍学生数（表18）	18
IV 教員組織	
1-1 全学の教員組織（表19）	19
1-2 学部の教員組織（表19-2）	20
1-3 大学院研究科の教員組織〔専門職大学院を除く〕（表19-3）	21
1-4 専門職大学院の教員組織（表19-4） 該当なし	22
2 専任教員個別表（表20）	23
3 専任教員年齢構成（表21）	33

4	専任教員の担当授業時間 (表22)	34
5	専任教員の給与 (表23)	35
V	研究活動と研究環境	頁
1	専任教員の教育・研究業績 (表24) 別冊	36
2	専任教員の教育・研究業績 (芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員) (表25) 該当なし	38
3	学術賞の受賞状況 (表26)	39
4	特許出願・登録状況 (表27)	40
5	産学官連携による研究活動状況 (表28)	41
6	専任教員の研究費 (実績) (表29)	42
7	専任教員の研究旅費 (表30)	43
8	学内共同研究費 (表31)	44
9	教員研究費内訳 (表32)	45
10	科学研究費の採択状況 (表33)	46
11	学外からの研究費の総額と一人当たりの額 (表34)	47
12	教員研究室 (表35)	48
VI	施設・設備等	
1	校地、校舎、講義室・演習室等の面積 (表36)	49
2	学部・大学院研究科等ごとの講義室、演習室等の面積・規模 (表37)	50
3	学部の学生用実験・実習室の面積・規模 (表38)	51
4	大学院研究科の学生用実験・実習室の面積・規模 (表39) 該当なし	52
5	規模別講義室・演習室使用状況一覧表 (表40)	53
VII	図書館および図書・電子媒体	
1	図書、資料の所蔵数 (表41)	54
2	過去3年間の図書の受け入れ状況 (表42)	55
3	学生閲覧室等 (表43)	56
VIII	学生生活	
1	奨学金給付・貸与状況 (表44)	57
2	生活相談室利用状況 (表45)	59
IX	財務 (私立大学のみ)	
1-1	消費収支計算書関係比率 (法人全体のもの) (表46-1)	60
1-2	消費収支計算書関係比率 (大学単独のもの) (表46-2)	61
2	貸借対照表関係比率 (表47)	62

X 情報公開・説明責任

1 財政公開状況について（表48）

大学基礎データ作成上の注意事項

- 1 「大学基礎データ」は、原則として「大学評価」申請**前年度**の5月1日現在のデータで作成すること。ただし、各表の注において作成年に関する指示がある場合は、その指示に従って作成すること。
本様式は、2008（平成20）年度申請用に作成しているのので、特に注記がない場合、2007（平成19）年5月1日が作成標準日となる。
- 2 「大学基礎データ」は、A4判で作成すること。全体に通しページを付し、目次を作成すること。
- 3 表紙には、申請年度と大学名を明記すること。
- 4 専任教員に関するデータの作表にあたっては、「IV 教員組織 1 全学の教員組織（表19）」を基本とし、同表に専任として記載した学部、大学院研究科等ごとにその後の表を作成すること。
- 5 「IV 教員組織 2 専任教員個別表（表20）」が大部になる場合は、「大学基礎データ」と別冊にしてもよい。
- 6 「専任教員の教育・研究業績」については大学・学部等の固有の業績一覧を提出することを原則とする。大学で固有の業績一覧を作成していない場合は、本「大学基礎データ（様式）」の（表24）および（表25）を参考にして作表すること。
また、この業績一覧は、「大学基礎データ」とは別冊にすること。
- 7 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示すること。
- 8 該当しない表がある場合は、その表のタイトルと表番号のみを記入し、「該当なし」と注記すること。なお、作成しない表があっても各表の右上に付された表番号は変更しないこと。
**【例】 「7 国家試験合格率（表9）」
該当なし**
- 9 各表において、記入すべき数値が無い場合は、空欄とせず、「-」（ハイフン）を記入すること
- 10 各表に付されている脚注は消去しないこと。

なお、本「大学基礎データ」（様式）は、大学基準協会のホームページ（<http://www.juaa.or.jp>）から入手できます。

I 教育研究組織

1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2008年4月1日現在）

(表1)

学部、大学院研究科等	学科、専攻の名称	収容定員(名)	所在地	備考
看護学部	看護学科	400	福岡県宗像市アスティ1丁目1番地	
看護学研究科※1	看護学専攻	20	同上	2007年4月受入れ開始
		420		

- [注] 1 申請年（2008年）4月1日付で設置している学部・学科、研究科・専攻を記入すること（募集停止しているものを含む）。
- 2 通信教育課程があれば、これも記載すること。
- 3 申請年度（2008年度）から学生受入を開始、名称を変更した学部・学科、研究科・専攻名には、備考欄にその旨を付記すること。
- 4 学生募集を停止している学部・学科、研究科・専攻名には、備考欄にその旨を付記すること。
- 5 専門職大学院は、該当する研究科・専攻名に（ ）でその旨を明記すること。
- 6 申請年4月時に完成年度に達していない学部・学科、研究科・専攻には（※1）を、申請資格充足年度（完成年度+1年）に達していない学部・学科、研究科・専攻には（※2）を付記し、備考欄に学生受入れ年月を記入すること。
- 7 収容定員は、入学定員を変更している場合、編入学を実施している場合、完成年度に達していない場合、学生募集を停止している場合など、「現在の入学定員×標準修業年限」では算出できないので注意すること。

※ (表2) 削除

II 教育研究の内容・方法等

1 開設授業科目における専兼比率

(表3)

学部・学科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
看護学部	看護学科	専門基礎	専任担当科目数 (A)	11.3		15.3
			兼任担当科目数 (B)	9.7		10.7
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	53.8%		58.8%
		専門	専任担当科目数 (A)	41		52
			兼任担当科目数 (B)	1		2
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	97.6%		96.3%
		一般教養	専任担当科目数 (A)	8.3	4	12.3
			兼任担当科目数 (B)	2.7	14	16.7
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	75.5%	22.2%	42.4%

- [注] 1 ここでの「専任担当科目数」には、他学部・大学院研究科・研究所等の専任教員による兼任科目も含めること。
- 2 「専門教育」欄および「教養教育」欄は、大学の設定する区分に応じて名称を付すこと。その場合であっても、おおよそ専門教育的な教育と教養教育的な教育に分けて記入すること。
- 3 セメスター制を採用しており、各学期ごとの状況に差がある場合はそれぞれの学期について作表すること。
- 4 「全開設授業科目」は、「必修科目」と「選択必修科目」の合計ではないので注意すること。「選択科目」、「自由科目」を記入する必要は無い。
- 5 同一科目を週2回実施している場合の計算方法は下記の通りである。
- ①同一講師による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1、兼任教員が担当した場合は兼任担当科目数1となる。
- ②複数教員による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1、専任教員と兼任教員がそれぞれ担当した場合は、専任担当科目数0.5、兼任担当科目数0.5となる。
- 6 実験・実習等において兼任教員を含む複数の教員が担当する場合は、人数比による数値を記載すること（例：専任4人、兼任1人で担当の場合は、専任0.8、兼任0.2となる）。

2 単位互換協定に基づく単位認定の状況

〈該当なし〉

(表4)

学 部 ・ 学 科		認定者数 (A)	他大学		短期大学		1人当たり 平均認定 単位数 (B+C) / A
			認定単位数 (B)		認定単位数 (C)		
			専門科目	専門以外	専門科目	専門以外	
○○学部	○○学科						
計							
計							
合 計							

[注] 1 他大学または短期大学との単位互換協定に基づき単位認定を行っているものを記載すること。

2 2006年度の実績を記入すること。

3 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況

(表5)

学 部 ・ 学 科		認定者数 (A)	大学・短大・高専等		その他		1人当たり平均 認定単位数 (B+C) / A
			認定単位数 (B)		認定単位数 (C)		
			専門科目	専門以外	専門科目	専門以外	
看護学部	看護学科	3	—	17	—	—	5.7

- [注] 1 原則として、大学設置基準第29条及び第30条で規定された「大学以外の教育施設等における学修」と「入学前の既修得単位等の認定」に該当するものを記載すること。
 ただし、上記には該当しないものの、単位互換協定以外で学生が国内外の大学において履修した授業科目の単位を自大学の単位として認定している場合は、本表の「大学・短大・高専等」欄に含めること。
- 2 「大学・短大・高専等」欄には、大学、短期大学または高等専門学校の専攻科における学修を、「その他」欄には、「大学設置基準第29条第1項の規定により、大学が単位を与えることのできる学修を定める件」（平成12年文部科学省告示第181号）に定められた学修を記載すること。
- 3 2006年度の実績を記入すること。
- 4 編入学生はここには含めないこと。

4 卒業判定

(表6)

学部・学科		2004年度			2005年度			2006年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率(%) B/A*100	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率(%) B/A*100	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率(%) B/A*100
看護学部	看護学科	105	105	100	129	129	100	105	105	100

[注] 「卒業予定者」とは、毎年度5月1日における当該学部の最終学年に在籍する学生を指す。

5 大学院における学位授与状況

(表7)

研究科・専攻		学 位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	備考
看護学研究科	看護学専攻	修 士	—	—	—	—	—	2007年4月1日開設

[注] 当該研究科もしくは専攻、課程が最近開設され、そのために学位授与該当者がいない場合は、備考欄にその開設年月日を記載すること。

6 就職・大学院進学状況

(表8)

学 部	進 路	2004年度	2005年度	2006年度	
看護学部	就職	民間企業	—	—	—
		官公庁	—	2	1
		教員	—	—	—
		赤十字医療機関	78	95	76
		その他医療機関	20	29	25
		上記以外	—	—	—
	進学	自大学院	—	—	—
		他大学院	1	—	—
		進学（その他）	3	2	1
	そ の 他	3	1	2	
	合 計	105	129	105	

- [注] 1 「その他」欄には、当該学部の各年度の卒業者のうち、就職、進学のいずれにも該当しないもののすべての数を記入すること。
- 2 専門学校教員、日本語教師、NGO団体、国際機関等への就職については、「就職（上記以外）」のすべての数を記入すること。
- 3 専門学校への進学は、「進学（その他）」欄に記入すること。

7 国家試験合格率

(表9)

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100
看護・看護	看護師国家試験	105	105	100
看護・看護	保健師国家試験	102	102	100
看護・看護	助産師国家試験	7	7	100

[注] 1 たとえば「医師国家試験」、「薬剤師国家試験」、「管理栄養士国家試験」などのように、当該学部・学科等の教育と関連の深い国家試験について記載すること。

8 公開講座の開設状況

(表10)

大学 研究	学部 科	年間開設講座数	1 講座当たりの 平均受講者数	備 考
看護学部		7	42	

- [注] 1 2006年度実績を記入すること。
 2 シンポジウム、講演会は含めないこと。

9 国別国際交流協定締結先機関

(表11)

国名 大学・学部 研究科・研究所等	大韓民国	タイ王国					合計
日本赤十字 九州国際看護大学	2	2					4

[注] 大学・学部・大学院研究科・研究所等ごとに国別に交流協定締結機関数を記入すること。

10 人的国際学術研究交流

(表12)

学部・研究科等		派 遣						受 け 入 れ					
		2004年度		2005年度		2006年度		2004年度		2005年度		2006年度	
		短 期	長 期	短 期	長 期	短 期	長 期	短 期	長 期	短 期	長 期	短 期	長 期
看護学部	新規	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	継続	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
看護学研究科	新規	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	継続	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	新規	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	継続	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- [注] 1 研究者（教員を含む）の派遣、受け入れとも1年未満のものを「短期」とし、それ以上を「長期」とする。
- 2 各派遣者および受け入れ者について、派遣および受け入れが複数年度にわたる場合、初年度については「新規」欄に、次年度以降は「継続」欄に人数を記入すること。
- 3 旅費・滞在費等の経費負担が私費によるものも含め、全ての派遣者および受け入れ者について記入すること。

Ⅲ 学生の受け入れ

1 学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移

(表13)

		入試の種類	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	
看護学部	看護学	一般入試	志願者	562	445	464	381	424
			合格者	180	161	197	202	193
			入学者	80	83	83	85	84
			入学定員	70	70	70	70	70
	看護学	AO入試	志願者	—	—	—	—	—
			合格者	—	—	—	—	—
			入学者	—	—	—	—	—
			入学定員	—	—	—	—	—
	看護学	附属校推薦	志願者	—	—	—	—	—
			合格者	—	—	—	—	—
			入学者	—	—	—	—	—
			入学定員	—	—	—	—	—
	看護学	指定校推薦	志願者	—	—	—	—	—
			合格者	—	—	—	—	—
			入学者	—	—	—	—	—
			入学定員	—	—	—	—	—
	看護学	公募推薦入試	志願者	94	68	67	61	47
			合格者	31	36	31	33	33
			入学者	31	36	31	33	32
			入学定員	30	30	30	30	30
	看護学	一芸一能入試	志願者	—	—	—	—	—
			合格者	—	—	—	—	—
			入学者	—	—	—	—	—
			入学定員	—	—	—	—	—
	看護学	その他	志願者	—	—	—	—	—
			合格者	—	—	—	—	—
			入学者	—	—	—	—	—
			入学定員	—	—	—	—	—
看護学部	学科計	志願者	656	513	531	442	471	
		合格者	211	197	228	235	226	
		入学者	111	119	114	118	116	
		入学定員	100	100	100	100	100	
看護学部	学部合計	志願者	656	513	531	442	471	
		合格者	211	197	228	235	226	
		入学者	111	119	114	118	116	
		入学定員	100	100	100	100	100	
看護学部	大学合計	志願者	656	513	531	442	471	
		合格者	211	197	228	235	226	
		入学者	111	119	114	118	116	
		入学定員	100	100	100	100	100	

[注] 1 「一般入試」欄には大学入試センター試験を含めること。

2 「その他」欄には社会人、外国人留学生、帰国生徒に対する入試等についてまとめて記入すること。

ただし、上記の表に該当しない推薦入試を実施している場合は、「その他の推薦入試」欄を設けて作表すること。また、それ以外に相当数の学生（約一割以上）を入学させている入試方法がある場合は、「その他」に含めず適宜欄を設けて記入すること。なお、該当しない入試方法の欄は削除すること。

3 セメスター制の採用により、秋学期入学など、年に複数回の入学時期を設定している場合は、それぞれの学期について作表すること。

4 学部が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて各学科の「合計」欄の総数を「志願者」「合格者」「入学者」「入学定員」ごとに記入すること。また、学科内に専攻等を儲け、その専攻等ごとに入学定員を設定している場合は、専攻等ごとに作表すること。複数学部を設置している大学の場合は、「大学合計」欄を儲け、「学部合計」と同様に記入すること。

2 学部・学科の学生定員及び在籍学生数

(表14)

学 部	学 科	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員 (A)	在籍学生 総 数 (B)	編入学 生数 (内数)	B/A	在 籍 学 生 数								備 考
								第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
								学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
看護学部	看護学科	100	—	400	471	—	1.18	116	—	128	11	105	6	122	10	
計		100	—	400	471	—	1.18	116	—	128	11	105	6	122	10	
合 計		100	—	400	471	—	1.18	116	—	128	11	105	6	122	10	

- [注] 1 昼夜開講制をとっている学部については、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて記入すること。
 2 収容定員は、定員変更などにより、現在の入学定員の4倍（6年制の学部は6倍）ではない場合があるので、該当する年度ごとの入学定員、編入学定員に注意すること。
 3 現在の在籍学生に関わる入学定員及び編入学定員に変更があった場合には、「備考」欄に注記すること。
 4 修業年限を6年とする学部・学科の場合には、第6年次まで作表すること。
 5 編入学定員を設定している場合は、備考欄にその受け入れ年次を記入すること。
 6 「B/A」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示すること。
 7 通信教育課程、専攻科、別科等についても学部の表に準じて作成すること。

3 学部の入学者の構成

(表15)

学 部	学 科		入 学 者 数							備 考	
			一般入試	A0入試	附属校 推薦	指定校 推薦	公募 推薦 入試	一芸 一能 入試	その他		計
看 護 学 部	看護学科	入学定員	70	—	—	—	30	—	—	100	
		入学者数	84	—	—	—	32	—	—	116	
		計に対する割合	72.4%	%	%	%	27.6%	%	%	100.0%	
合 計		入学定員	70	—	—	—	30	—	—	100	
		入学者数	84	—	—	—	32	—	—	116	
		計に対する割合	72.4%	%	%	%	27.6%	%	%	100.0%	

- [注] 1 入試の種類については、「Ⅲ 1 学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移」(表13)と同様の区分で作成すること。
 2 各学科および合計欄の下段には全入学者数に対する割合を記入すること。
 3 「一般入試」欄には大学入試センター試験を含めること。
 4 「その他」の入試による内訳を、備考欄に記載すること。(例：社会人入試○名、外国人留学生入試△名)
 5 セメスター制の採用により、秋学期入学など、年に複数回の入学時期を設定している場合は、それぞれの学期について作表すること。
 6 各募集定員が若干名の場合は「0」として記入すること。

4 学部の社会人学生・留学生・帰国生徒数<該当なし>

(表16)

学 部	学 科	社会人学生数	留学生数	帰国生徒数
看護学部	看護学科	—	—	—
計		—	—	—
合 計		—	—	—

- [注] 1 社会人、留学生、帰国生徒としてここに挙げるのは、一般の学生を対象とした入試とは別にそれぞれの入試によって入学させた学生をいう。科目等履修生、聴講生、交換留学生は含めないこと。
- 2 1年次生のみではなく、在籍学生総数を記入すること。

5 学部・学科の退学者数

(表17)

学部	学科	2004年度					2005年度					2006年度				
		1年次	2年次	3年次	4年次	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
看護学部	看護学科	1	3	1	—	5	—	—	1	—	1	1	5	—	1	7

[注] 1 退学者数には、除籍者も含めること。

2 修業年限を6年とする学部・学科の場合には、第6年次まで作表すること。

6 大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

(表18)

研究科	専攻	入学定員		収容定員		在籍学生数										C/A	D/B
		修士課程	博士課程	修士課程(A)	博士課程(B)	修士課程					博士課程						
						一般	社会人	留学生	その他	計(C)	一般	社会人	留学生	その他	計(D)		
看護学研究科	看護学専攻	10	—	20	—	0	11	0	0	11	—	—	—	—	—	0.55	—
合計		10	—	20	—	0	11	0	0	11	—	—	—	—	—	0.55	—

[注] 1 博士課程を前期と後期に区分している場合は、前期課程は修士課程の欄に後期課程は博士課程の欄に記載すること。

また、5年一貫制の博士課程は博士課程の欄に記載すること。

2 専門職学位課程については、該当する研究科・専攻名の後に「(専門職)」と付記し、付与する学位の種類に対応する欄に記載すること。

3 科目等履修生、聴講生、研究生は、在籍学生数には含めないこと。

4 「C/A」および「D/B」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示すること。

IV 教員組織

1-1 全学の教員組織

(表19)

学部・学科、研究科・ 専攻、研究所等		専任教員数										備考	
		教授		准教授		講師		助教		計			助手
			特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)		
看護学部	看護学科	15	6	7	0	10	0	0	0	32	6	10	
看護学部 計		15	6	7	0	10	0	0	0	32	6	10	
看護学研究科	看護学専攻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	全て学部教員を兼務している。
看護学研究科 計		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計		15	6	7	0	10	0	0	0	32	6	10	

- [注] 1 全学の専任教員について、学部、大学院研究科、専門職大学院、研究所等、各所属組織ごとに記載すること。
- 2 専門職大学院については、該当する研究科（または専攻名）の後に「（専門職）」と付記すること。
- 3 教育組織と教員組織が異なる場合は、専任教員が在籍しなくても、まず教育組織を記載し、その後に教員組織を記載し、当該教員組織に専任教員数を記入すること（次ページ記入例参照）。
- 4 教養教育科目、外国語科目、保健体育科目、教職科目等を担当する独立の組織がある場合には、「（その他の組織）」欄に、その名称を記載し、専任教員数を記入すること。
- 5 本表においては、大学設置基準第11条にいう「授業を担当しない教員」についても、専任教員数に含めて記入すること。
- 6 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づく任期制教員を除き、特任教授、客員教授など任用期間のある教員については、専任者（教育研究条件等において専任教員と同等の者）のみを「専任教員数」の欄の「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」の該当する欄（左側）に含めて記入するとともに、その数を「特任等（内数）」欄に内数で示すこと。専任者以外の特任者等については記入しないこと。
- 7 「専任教員数」欄については、本表内では1人の専任教員を複数の組織に重複して記入しないこと。

1-2 学部の教員組織

(表19-2)

学部・学科等		専任教員数										設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人 当たりの 在籍学生数 (表14(B)/計(A))	兼 任 教員数	備 考	
		教授		准教授		講 師		助教		計 (A)						助手
		特任等 (内数)														
看護学部	看護学科	15	6	7	0	10	0	0	0	32	6	10	19 (10)	14.72	39	
看護学部 計		15	6	7	0	10	0	0	0	32	6	10	19 (10)	14.72	39	
(その他の学部教育担当組織)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
大学全体の収容定員に応じ 定める専任教員数																
合 計		15	6	7	0	10	0	0	0	32	6	10	19 (10)		39	

- [注] 1 専任教員については、(表19)のうち、学部教育を担当する専任教員について作表すること。
- 2 教養教育科目、外国語科目、保健体育科目、教職科目等の学部教育を担当する独立の組織がある場合には、「(その他の学部教育担当組織)」欄に、その名称を記載し、専任教員数を記入すること。
- 3 「専任教員数」欄には、大学院研究科等の専任で、その研究科の基礎となる学部・学科等においても**専任**として授業を担当している教員数も含めて記入すること。その場合、(表19-3)および(表19-4)の専任教員が、本表においても専任教員に算入される。
たとえば、大学院研究科に専任教員が配置され、学部教育が専ら研究科の専任教員によって行われている場合がこの典型的な例である。
- 4 教育組織と教員組織が異なる場合も、大学設置基準における必要専任教員数に留意して、学部教育担当専任教員数を適切に記入すること。
- 5 当該学部・学科の専任であっても、大学設置基準第11条にいう「授業を担当しない教員」については、専任教員数には含めないこと。
- 6 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づく任期制教員を除き、特任教授、客員教授など任用期間のある教員については、専任者(研究条件等において専任教員と同等の者)のみを「専任教員数」欄の「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」の該当する欄(左側)に含めて記入するとともに、その数を「特任等(内数)」欄に内数で示すこと。専任者以外の特任者等については「兼任教員数」欄に含めて記入すること。
- 7 「専任教員数」欄については、本表内では1人の専任教員を複数の組織に重複して記入しないこと。
- 8 「兼任教員数」欄には、学外からのいわゆる非常勤教員数を記入すること。併設短期大学からの兼務者も「兼任教員数」の欄に含めること。なお、国立大学所属教員については、「兼任」、「兼任」を共に「併任」としている場合もあるが、学外からの併任である者は「兼任教員数」欄に記入すること。
同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合は、それぞれ記入すること(重複可)。大学の状況によっては、兼任教員数の欄は学科ごとではなく学部全体で記述してもよい。
- 9 「設置基準上必要専任教員数」欄には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入すること。同表に基づかない算出方法により設置認可を得ている場合にはその数値を記入するとともに備考欄にその旨を記述すること。
- 10 「助手」欄には、大学院研究科等の専任で学部の業務にも従事している助手数も含めて記入すること。
- 11 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入すること。

1-3 大学院研究科の教員組織（専門職大学院を除く）

(表19-3)

研究科・専攻	専任教員数										専任教員のうち		設置基準上必要専任教員数		兼任教員数	備考	
	教授		准教授		講師		助教		計		助手	研究指導教員数	研究指導補助教員数	研究指導教員数			研究指導補助教員数
		特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)							
看護学研究科 看護学専攻	12	6	6	0	2	0	0	0	20	6	0	8(7)	9	6(4)	6	8	
看護学研究科 計	12	6	6	0	2	0	0	0	20	6	0	8(7)	9	6(4)	6	8	

() 内は教授の数を内数で示す。

- [注] 1 専任教員については、(表19)のうち、大学院研究科の教育を担当する専任教員について作表すること。
- 2 専門職大学院については、既存の研究科の1専攻として置かれている場合であっても、次表(表19-4)により別に作表すること。
- 3 「専任教員数」欄には、学部・学科等の専任で、たとえば、その学部・学科等に基礎を置く当該研究科・専攻等においても専任として授業を担当している常勤教員数も含めて記入すること。その場合、前表(19-2)の専任教員が、本表にも専任教員に算入される。
- 4 教育組織と教員組織が異なる場合も、大学院設置基準等における必要専任教員数に留意して大学院研究科の教育を担当する専任教員数を適切に記入すること。
- 5 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づく任期制教員を除き、特任教授、客員教授など任用期間のある教員については、専任者(研究条件等において専任教員と同等の者)のみを「専任教員数」の欄の「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」の該当する欄(左側)に含めて記入するとともに、その数を「特任等(内数)」欄に内数で示すこと。専任者以外の特任者等については「兼任教員数」欄に含めて記入すること。
- 6 「研究指導教員」とは、大学院設置基準第9条第1項各号に掲げる資格を有する教員を指し、「研究指導補助教員」とは、研究指導の補助を行い得る教員を指す。
- 7 「研究指導教員数」欄の()には、教授の数を内数で記入すること。
- 8 「専任教員数」欄については、本表内では1人の専任教員を同一の課程に重複して算入しないこと。1人の専任教員を修士課程と博士課程の両課程においてそれぞれ1専攻に限り専任とすることはできるが、どちらか一方の課程において、複数の専攻の専任とすることはできないので、留意すること。
- 9 「兼任教員数」欄には、学外からのいわゆる非常勤教員数を記入すること。なお、国立大学所属教員については、「兼任」、「兼任」を共に「併任」としている場合もあるが、学外からの併任である者は「兼任教員数」欄に記入すること。
- 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合は、それぞれ記入すること(重複可)。大学の状況によっては、兼任教員数の欄は専攻ごとではなく研究科全体で記述してもよい。
- 10 「設置基準上必要専任教員数」欄には、「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件」(平成11年文部省告示 第175号)により算出した数値を記入すること。同表に基づかない算出方法により設置認可を得ている場合にはその数値を記入するとともに備考欄にその旨を記述すること。
- 11 「助手」欄には、学部・学科等の専任で大学院研究科の業務にも従事している助手数も含めて記入すること。
- 12 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入すること。

1-4 専門職大学院の教員組織 該当なし

(表19-4)

〇〇研究科・〇〇専攻 (専門職)		専任教員数							設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人 当たりの 在籍学生数	兼任 教員数	備考
		教授	准教授	講師	助教	計	助手					
		特任等 (内数)	特任等 (内数)	特任等 (内数)	特任等 (内数)	特任等 (内数)	特任等 (内数)					
専任教員 の内訳	専任教員								/			
	専任(兼担)教員											
	実務家教員											
	みなし専任教員											
合計												

専任教員に占める 教授の比率 (%)	
-----------------------	--

専任教員に占める 実務家教員の比率 (%)	
--------------------------	--

[注] 1 専任教員の内訳については、次の定義・名称によって作表すること。

- ①「専任教員」：当該専門職大学院の専任教員であって、下記②～④以外の者
- ②「専任(兼担)教員」：当該専門職大学院の専任教員であって、他学部・他研究科または法科大学院を一専攻として開設している研究科の他専攻の専任でもある者(ただし、専門職大学院設置基準付則2ただし書により博士課程の専任に算入している教員は除く)
- ③「実務家教員」：当該大学院の専任教員であって、平成15年文部科学省告示第53号第2条第1項に規定する実務経験と実

- 2 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づく任期制教員を除き、特任教授、客員教授など任用期間のある教員については、専任者(教育研究条件等において専任教員と同等の者)のみを「専任教員数」の欄の「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」の該当する欄(左側)に含めて記入するとともに、その数を「特任等(内数)」欄に内数で示すこと。専任者以外の特任者等については記入しないこと。
- 3 「設置基準上必要専任教員数」欄には、「専門職大学院に関し必要な事項について定める件」(平成15年文部科学省告示第53号)ににより算出した数値を記入すること。同表に基づかない算出方法により設置認可を得ている場合にはその数値を記入するとともに備考欄にその旨を記述すること。
- 4 「兼任教員数」欄には、学外からのいわゆる非常勤教員数を記入すること。なお、国立大学所属教員については、「兼担」、「兼任」を共に「併任」としている場合もあるが、学外からの併任である者は「兼任教員数」欄に記入すること。
- 5 「助手」欄には、学部・学科等の専任で専門職大学院の業務にも従事している助手数も含めて記入すること。
- 6 専任教務補助員等については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入すること。

2 専任教員個別表

看護学部

(表20)

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
教授	きたえつこ 喜多悦子	女	67	2001.4.1	2001.4.1	看護学科	赤十字概論	0.50						0.50	0.00	6.1	有	奈良県立医科 大学医学部医 学科 博士（医学）
							人体の構造Ⅰ	0.70						0.70	0.00			
							人体の構造Ⅱ		0.70					0.00	0.70			
							環境と人間	2.00						2.00	0.00			
							疾病と治療Ⅰ		0.70					0.00	0.70			
							国際保健学		0.50					0.00	0.50			
							プライマリーヘルスケア	1.00						1.00	0.00			
							災害看護学		0.30					0.00	0.30			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
							△人間の安全保障と赤十字	1.00						1.00	0.00			
							△健康危機と看護	0.70						0.70	0.00			
△貧困削減と健康		1.00					0.00	1.00										
△グローバル・ヘルス	1.00						1.00	0.00										
計	6.90	3.20	0.00	2.00	0.00	0.00	6.90	5.20										
教授	さかもとようこ 坂本洋子	女	72	2002.4.1	2002.4.1	看護学科	カウンセリング論		1.00					0.00	1.00	8.3	無	筑波大学大学院 教育研究科カウ ンセリング専攻 修士課程修了 修士（カウ ンセリング）
							看護方法学Ⅰ	0.50						0.50	0.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							精神看護学概論		1.00					0.00	1.00			
							精神看護学Ⅰ	1.00						1.00	0.00			
							精神看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
							△クライシスカウンセリング	2.00						2.00	0.00			
計	3.50	2.00	0.00	2.00	7.50	1.50	11.00	5.50										
教授	おおつかくにこ 大塚邦子	女	61	2001.4.1	2001.4.1	看護学科	看護方法学Ⅰ	0.50						0.50	0.00	7.3	無	筑波大学大学院 教育研究科カウ ンセリング専攻 修士課程修了 修士（カウ ンセリング）
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							老人看護学概論	1.00						1.00	0.00			
							老人看護学Ⅰ		2.00					0.00	2.00			
							老人看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
計	1.50	2.00	0.00	2.00	7.50	1.50	9.00	5.50										

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
教授	こばやしますえ 小林 益江	女	66	2002. 4. 1	2002. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	9.8	有	大分医科大学 大学院医学系 研究科看護学 専攻修士課程 修了 修士（看護 学）
							母性看護学概論	1.00						1.00	0.00			
							母性看護学Ⅰ		0.50					0.00	0.50			
							母性看護学実習					0.80	0.80	0.80	0.80			
							助産学概論		1.00					0.00	1.00			
							助産管理学	1.00						1.00	0.00			
							助産学実習					4.50		4.50	0.00			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
							△ 開発と健康	1.00						1.00	0.00			
△ リプロダクティブヘルス	1.00						1.00	0.00										
計	4.00	1.50	0.00	2.00	11.30	0.80	15.30	4.30										
教授	やまもと しょうこ 山本 捷子	女	64	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	赤十字概論	0.50						0.50	0.00	9.1	無	秋田大学大学 院教育学研究 科修士課程修 了 修士（教育 学）
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							小児看護学概論	2.00						2.00	0.00			
							小児看護学Ⅱ			1.00				1.00	0.00			
							小児看護学実習					2.30	2.30	2.30	2.30			
							災害看護学		0.30					0.00	0.30			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
							△人間の安全保障と赤十字	1.00						1.00	0.00			
							△健康危機と看護	0.70						0.70	0.00			
計	4.20	0.30	1.00	2.00	8.30	2.30	13.50	4.60										
教授	さとうたまみ 佐藤 珠美	女	47	2002. 4. 1	2005. 12. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	12.1	有	大阪大学大学 院医学系研究 科保健学専攻 博士課程修了 博士（保健 学）
							母性看護学実習					0.80	0.80	0.80	0.80			
							助産診断学Ⅰ	2.00	2.00					2.00	2.00			
							助産診断学Ⅱ		1.00					0.00	1.00			
							助産技術学Ⅰ			1.00	1.00			1.00	1.00			
							助産学技術学Ⅱ				2.00			0.00	2.00			
							助産学実習					4.50		4.50	0.00			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
							△ リプロダクティブヘルス	1.00						1.00	0.00			
計	3.00	3.00	1.00	5.00	11.30	0.80	15.30	8.80										

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
教授	くりす えい こ 栗 栖 瑛 子	女	74	2007. 4. 1	2007. 4. 1	看護学科	精神看護学概論		1.00					0.00	1.00	2.5	有	東京大学医学 部衛生看護科 博士（医学）
							卒業研究				2.00		0.00	2.00				
							△成育環境と精神保健	1.00					1.00	0.00				
							△精神障害と看護	1.00					1.00	0.00				
計	2.00	1.00	0.00	2.00	0.00	0.00	2.00	3.00										
教授	きし けいこ Kishi Keiko いまい Imai	女	71	2007. 4. 1	2007. 4. 1	看護学科	看護学概論Ⅰ	0.70					0.70	0.00	4.6	無	ペンシルバニ ア大学看護科 学研究科博士 課程修了 Doctor of Nursing Science（看 護科学）	
							基礎看護学実習Ⅰ					1.50	1.50	0.00				
							成人看護学概論		1.00				0.00	1.00				
							卒業研究				2.00	0.00	2.00					
							△高齢者とケアシステム	1.00				1.00	0.00					
							△国際医療コミュニケーション		2.00			0.00	2.00					
△看護理論	1.00				1.00	0.00												
計	2.70	3.00	0.00	2.00	1.50	0.00	4.20	5.00										
教授	みやじ ふみ こ 宮 地 文 子	女	68	2007. 4. 1	2007. 4. 1	看護学科	地域看護学概論		0.70				0.00	0.70	3.4	有	日本大学大学 院医学研究科 博士（医学）	
							地域看護学Ⅰ	1.00					1.00	0.00				
							地域看護学Ⅱ	1.00					1.00	0.00				
							在宅看護論	1.00					1.00	0.00				
							卒業研究				2.00	0.00	2.00					
							△コミュニティ・エンバウメント	1.00				1.00	0.00					
計	4.00	0.70	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00	2.70										
教授	よしなが むねよし 吉 永 宗 義	男	53	2007. 4. 1	2007. 4. 1	看護学科	基礎ゼミナールⅠ			2.00			2.00	0.00	6.2	無	長崎大学医学 部 医学博士	
							基礎ゼミナールⅡ			2.00			2.00	0.00				
							人体の構造Ⅰ	0.70					0.70	0.00				
							人体の構造Ⅱ		0.70				0.00	0.70				
							人体の機能Ⅰ	2.00					2.00	0.00				
							人体の機能Ⅱ		2.00				0.00	2.00				
							遺伝学	1.00					1.00	0.00				
							卒業研究				2.00		0.00	2.00				
							計	3.70	2.70	4.00	2.00	0.00	0.00	7.70				4.70

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
教授	おだ ゆきこ 織田 由紀子	女	61	2006. 4. 1	2006. 4. 1	看護学科	社会学	2.00						2.00	0.00	7.5	有	クラーク大学 大学院国際開 発プログラム 修士課程修了 修士（国際開 発プログラ ム）
							国際社会の経済事情	2.00						2.00	0.00			
							基礎ゼミナールⅠ			2.00				2.00	0.00			
							基礎ゼミナールⅡ			2.00				2.00	0.00			
							国際開発論	1.00						1.00	0.00			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
							△開発と健康	1.00						1.00	0.00			
							△人材開発		1.00					0.00	1.00			
							△貧困削減と健康		1.00					0.00	1.00			
							△開発とジェンダー	1.00						1.00	0.00			
計	7.00	2.00	4.00	2.00	0.00	0.00	11.00	4.00										
教授	おかむら じゅん 岡村 純	男	53	2006. 4. 1	2006. 4. 1	看護学科	基礎ゼミナールⅠ			2.00				2.00	0.00	9.2	有	東京大学大学 院医学系研究 科保健学専攻 博士課程単位 取得後退学 修士（保健 学）
							基礎ゼミナールⅡ			2.00				2.00	0.00			
							人体の構造Ⅰ	0.70						0.70	0.00			
							人体の構造Ⅱ		0.70					0.00	0.70			
							社会福祉学		2.00					0.00	2.00			
							健康行動論	2.00						2.00	0.00			
							基礎看護学実習Ⅰ					1.50		1.50	0.00			
							国際看護学Ⅱ				1.50			1.50	0.00			
							看護研究方法	2.00						2.00	0.00			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
							△コミュニティ・アセスメント	1.00						1.00	0.00			
							△研究方法論	1.00						1.00	0.00			
							計	6.70	2.70	5.50	2.00	1.50	0.00	13.70	4.70			

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号		
							科目名	毎週授業時間数											
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期	
教授	いけだまさと 池田 正人	男	66	2006. 4. 1	2006. 4. 1	看護学科	情報科学 I			0.70					0.70	0.00	7.4	無	九州大学大学院 医学研究科 修士課程 博士 (医学)
							情報科学 II				2.00				0.00	2.00			
							基礎ゼミナール I			2.00					2.00	0.00			
							基礎ゼミナール II			2.00					2.00	0.00			
							保健統計学		2.00						0.00	2.00			
							世界の地域性と疫学		1.00						0.00	1.00			
							卒業研究				2.00				0.00	2.00			
							△研究方法論	1.00							1.00	0.00			
							△情報管理学	2.00							2.00	0.00			
計	3.00	3.00	4.70	4.00	0.00	0.00	7.70	7.00											
教授	とくなが さとし 徳永 哲	男	58	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	英語 II			2.00	2.00			2.00	2.00	8.0	無	明治大学大学院 文学研究科 修士課程 修士 (文学)	
							英語 III			2.00	2.00			2.00	2.00				
							英語 V			2.00				2.00	0.00				
							基礎ゼミナール I			2.00				2.00	0.00				
							基礎ゼミナール II			2.00				2.00	0.00				
							卒業研究				2.00			0.00	2.00				
							計	0.00	0.00	#####	6.00	0.00	0.00	10.00	6.00				
教授	ひゅー たいらー Huw G. L Tyler	男	57	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	人間と表現		2.00					0.00	2.00	7.0	無	グラスゴー大 学音楽演劇学 部 学士 (演劇)	
							英語 I			2.00	2.00			2.00	2.00				
							英語 IV			2.00	2.00			2.00	2.00				
							基礎ゼミナール I			2.00				2.00	0.00				
							基礎ゼミナール II			2.00				2.00	0.00				
計	0.00	2.00	8.00	4.00	0.00	0.00	8.00	6.00											
准教授	たにぎしえつこ 谷岸 悦子	女	52	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	基礎看護学実習 II					1.50		1.50	0.00	9.5	無	九州大学大学院人間 環境学府発達・社会 システム専攻修士課 程 修士 (教育学)	
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00				
							卒業研究				2.00			0.00	2.00				
							計	0.00	0.00	0.00	2.00	7.50	0.00	7.50	2.00				

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
准教授	しもやま せつこ 下山節子	女	58	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	赤十字概論	0.50						0.50	0.00	13.8	有	九州産業大学 大学院経営学 研究科経営学 専攻博士課程 単位取得後退 学 修 士（経営学）
							看護方法学Ⅳ－1			1.50				1.50	0.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							成人看護学概論	1.00						1.00	0.00			
							成人看護学Ⅱ		3.00					0.00	3.00			
							成人看護学演習			1.50				0.00	1.50			
							成人看護学実習Ⅱ					4.50	4.50	4.50	4.50			
							看護管理学		1.00					0.00	1.00			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
△慢性病生活支援	2.00						2.00	0.00										
計	3.50	4.00	1.50	3.50	10.50	4.50	15.50	12.00										
准教授	やませ よしえ 山勢善江	女	44	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	看護方法学Ⅴ	1.00				6.00		1.00	0.00	11.6	無	聖路加看護大 学大学院看護 学研究科看護 学専攻博士前 期課程修了 修士（看護 学）
							総合看護学実習						6.00	6.00	0.00			
							成人看護学Ⅰ	3.00			1.50			3.00	0.00			
							成人看護学演習			1.50				0.00	1.50			
							成人看護学実習Ⅰ				4.50	4.50	4.50	4.50				
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
							△健康危機と看護	0.70						0.70	0.00			
計	4.70	0.00	0.00	3.50	10.50	4.50	15.20	8.00										
准教授	かまち ちぐさ 蒲池千草	女	61	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	7.2	無	九州大学大学 院人間環境学 府修士課程修 了 修士（教育 学）
							地域看護学概論		0.70					0.00	0.70			
							地域看護学Ⅰ	1.00						1.00	0.00			
							地域看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
							△健康危機と看護	0.70						0.70	0.00			
△コミュニティ・エンバウメント	1.00						1.00	0.00										
計	2.70	0.70	0.00	2.00	7.50	1.50	10.20	4.20										
准教授	まつお かずえ 松尾和枝	女	50	2002. 4. 1	2002. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	6.5	無	佛敎大学大学 院教育学部研 究科生涯教育 専攻修士課程 修了 修士（教育学）
							地域看護学Ⅱ	1.00						1.00	0.00			
							地域看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
							△コミュニティ・アセスメント	1.00						1.00	0.00			
計	2.00	0.00	0.00	2.00	7.50	1.50	9.50	3.50										

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
准教授	えとうせつよ 江藤節代	女	54	2001. 4. 1	2001. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	8.3	無	九州大学大学院 人間環境研 究科修士課程 修了 修士（教育 学）
							小児看護学Ⅰ		2.00					0.00	2.00			
							小児看護学Ⅱ			1.00				1.00	0.00			
							小児看護学実習					2.30	2.30	2.30	2.30			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
							△成育環境と精神保健	1.00						1.00	0.00			
計	1.00	2.00	1.00	2.00	8.30	2.30	10.30	6.30										
准教授	ほんだ たみえ 本田 多美枝	女	38	2002. 4. 1	2006. 4. 1	看護学科	看護学概論Ⅰ	0.70						0.70	0.00	13.2	無	日本赤十字看 護大学大学院 看護学研究科 看護教育学専 攻博士後期課 程修了 博士（看護 学）
							看護学概論Ⅱ		1.00					7.50	2.50			
							基礎看護学実習Ⅱ					1.50		6.00	0.00			
							総合看護学実習					6.00		0.00	0.00			
							看護教育学		1.00					0.00	1.00			
							卒業研究				2.00			2.30	4.30			
							△人材開発		1.00					0.00	1.00			
							△看護理論	1.00						1.00	0.00			
計	1.70	3.00	0.00	2.00	7.50	0.00	17.50	8.80										
講師	いしばしゆきえ 石橋 通江	女	44	2003. 4. 1	2003. 4. 1	看護学科	人格発達論	1.00						1.00	0.00	7.8	無	福岡教育大学 大学院教育学 研究科学校教育 専攻修士課程 修了 修士（教育 学）
							看護方法学Ⅰ	0.50						0.50	0.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							精神看護学Ⅰ	1.00						1.00	0.00			
							精神看護学Ⅱ	1.00						1.00	0.00			
							精神看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
							△精神障害と看護	1.00						1.00	0.00			
計	4.50	0.00	0.00	2.00	7.50	1.50	12.00	3.50										

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
講師	うえむらともこ 上村 朋子	女	50	2002. 4. 1	2005. 9. 1	看護学科	赤十字概論	0.50						0.50	0.00	8.9	無	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科基礎看護学専攻博士後期課程単位取得後退学 修士（経営学）
							国際保健学		0.50					0.00	0.50			
							看護方法学Ⅳ－1			1.50				1.50	0.00			
							基礎看護学実習Ⅱ					1.50		1.50	0.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							国際看護学Ⅰ		1.00					0.00	1.00			
							国際看護学Ⅱ			1.50				1.50	0.00			
							災害看護学		0.30					0.00	0.30			
卒業研究				2.00			0.00	2.00										
△赤十字人道援助方法 (H.E.L.P)	1.50	1.50					1.50	1.50										
計	2.00	3.30	3.00	2.00	7.50	0.00	12.50	5.30										
講師	こばやし ひろみ 小林 裕美	女	45	2002. 12. 1	2006. 4. 1	看護学科	看護方法学Ⅳ－2				1.50			0.00	1.50	7.3	無	佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了 修士（成人看護学）
							看護方法学Ⅵ		1.00					0.00	1.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							在宅看護論	1.00						1.00	0.00			
							地域看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
計	1.00	1.00	0.00	3.50	7.50	1.50	8.50	6.00										
講師	まつお かずえ 松尾 和枝	女	41	2004. 4. 1	2006. 4. 1	看護学科	看護学概論Ⅰ	0.70						0.70	0.00	6.9	無	兵庫県立看護大学大学院看護学研究科修士課程修了 修士（看護学）
							看護学概論Ⅱ		1.00					0.00	1.00			
							看護方法学Ⅲ			1.00				1.00	0.00			
							看護方法学Ⅳ－2				1.50			0.00	1.50			
							基礎看護学実習Ⅱ					1.50		1.50	0.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
卒業研究				2.00			0.00	2.00										
計	0.70	1.00	1.00	3.50	7.50	0.00	9.20	4.50										
講師	さえき 佐伯 あゆみ	女	39	2003. 4. 1	2003. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	5.9	無	福岡教育大学大学院修士課程修了 修士（教育学）
							老人看護学Ⅱ			0.70			0.70	0.00				
							老人看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00		0.00	2.00				
計	0.00	0.00	0.70	2.00	7.50	1.50	8.20	3.50										

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
講師	いしだ ちえみ 石田 智恵美	女	44	2002. 4. 1	2002. 4. 1	看護学科	看護方法学Ⅲ			1.00				1.00	0.00	9.3	無	九州大学大学院人間環境学 府発達・社会 システム専攻 科修士課程修 了 修士（教育 学）
							看護方法学Ⅴ	1.00						1.00	0.00			
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							母性看護学概論	1.00						1.00	0.00			
							母性看護学Ⅱ			1.50				1.50	0.00			
							母性看護学実習					0.80	0.80	0.80	0.80			
							助産学実習					4.50		4.50	0.00			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
計	2.00	0.00	2.50	2.00	11.30	0.80	15.80	2.80										
講師	はまだ ゆきこ 濱田 維子	女	42	2003. 4. 1	2003. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	10.6	無	東亜大学大学院修士課程修 了 修士（人間科 学）
							母性看護学Ⅰ		0.50					0.00	0.50			
							母性看護学Ⅱ			1.50				1.50	0.00			
							母性看護学実習					0.80	0.80	0.80	0.80			
							助産診断学Ⅱ		1.00					0.00	1.00			
							助産技術学Ⅰ			1.00	1.00			1.00	1.00			
							助産技術学Ⅱ				2.00			0.00	2.00			
							助産学実習					4.50		4.50	0.00			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
計	0.00	1.50	2.50	5.00	11.30	0.80	13.80	7.30										
講師	ひめの としこ 姫野 稔子	女	41	2005. 4. 1	2005. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	5.9	無	大分医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了 修士 （人間科学）
							老人看護学Ⅱ			0.70				0.70	0.00			
							老人看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
計	0.00	0.00	0.70	2.00	7.50	1.50	8.20	3.50										
講師	たかはしきよみ 高橋 清美	女	40	2006. 4. 1	2006. 4. 1	看護学科	看護方法学Ⅰ	0.50						0.50	0.00	6.3	無	福岡県立大学大学院人間社 会学研究科修 士課程修了 修士（生涯発 達）
							総合看護学実習					6.00		6.00	0.00			
							精神看護学Ⅱ	1.00						1.00	0.00			
							精神看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究				2.00			0.00	2.00			
計	1.50	0.00	0.00	2.00	7.50	1.50	9.00	3.50										

職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属学科	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	大学院に おける研 究指導担 当資格の 有無	最終学歴及び 学位称号	
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期				後期
講師	おおくらみ てる 大倉美鶴	女	36	2007. 4. 1	2007. 4. 1	看護学科	総合看護学実習					6.00		6.00	0.00	6.4	無	佐賀医科大学大 学院医学系研究 科看護学専攻修 士課程修了 修士（看護学）
							老人看護学概論	1.00						1.00	0.00			
							老人看護学Ⅱ			0.70				0.70	0.00			
							老人看護学実習					1.50	1.50	1.50	1.50			
							卒業研究			2.00				0.00	2.00			
計	1.00	0.00	0.70	2.00	7.50	1.50	9.20	3.50										

[注] 1 「IV 1 全学の教員組織」(表19)に記載の専任教員について、所属組織ごとに作成すること。ただし、大学附置研究所、学部附属研究所、附属病院等の教員については、授業を担当している教員についてのみ記載すること。

- 2 「科目名」欄に記載する担当科目のうち、大学院研究科の授業科目には△印を付すこと。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示しているが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入すること。
- 4 毎週授業時間数は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、時間数に換算して記入すること（例えば1コマ90分の場合は、2時間）。
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出すること。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入すること。
- 7 「大学院における研究指導担当資格の有無」欄には、大学が定める基準に基づいて資格の有無を記入すること。

3 専任教員年齢構成

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計	
看護学部	教授	3	4	3	2	2	1	0	0	0	0	15	
		20.0%	26.7%	20.0%	13.3%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	1	1	2	1	1	1	1	0	0	7
		0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	1	6	3	3	0	0	10
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	60.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	計	3	4	4	3	4	3	7	4	4	0	0	32
		9.4%	12.5%	12.5%	9.4%	12.5%	9.4%	21.9%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	100%
	合 計		3	4	4	3	4	3	7	4	0	0	32
			9.4%	12.5%	12.5%	9.4%	12.5%	9.4%	21.9%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
定年 65 才													

[注] 1 「IV 1 全学の教員組織」(表19)中、学部、大学院研究科(及びその他の組織)に記載の専任教員について、所属組織ごとに作成すること。
ただし、教養教育担当者が学部に分属しているものの教養教育は全学共通で行っている場合は、その教員数を学部から除き、教養教育担当者の表を学部準じて別個に作成すること

2 各欄の下段にはそれぞれ「計」欄の数値に対する割合を記入すること。

4 専任教員の担当授業時間

看護学部（32人）

（表22）

教員 区分	教授	准教授	講師	助教	備考
最高	24.2 授業時間	27.6 授業時間	21.2 授業時間	—	1 授業時間 45 分
最低	5.0 授業時間	13.0 授業時間	11.8 授業時間	—	
平均	14.5 授業時間	20.0 授業時間	15.1 授業時間	—	
責任授業時間数	—	—	—	—	

- [注] 1 「IV 1 全学の教員組織」（表19）中、学部、大学院研究科（及びその他の組織）に記載の専任教員について、所属組織ごとに作成すること。
- 2 「IV 2 専任教員個別表」（表20）で算出した年間平均毎週授業時間数をもとに、専任教員が当該大学において担当する1週間の最高、最低及び総平均授業時間を記載すること。
- 3 「備考」欄に1授業時間が何分であるかを記入すること。ここでいう授業時間とはいわゆるコマではないので、1コマ90分の場合は、45分と記入すること。
- 4 専任の教授、准教授、講師、助教の1週間の責任授業時間数等の規定が無い場合は、「責任授業時間数」欄には「—」を記入すること。
- 5 担当授業時間が特に多い教員、または特に少ない教員がいる場合は、その理由を欄外に付記すること。
- 6 開設されてはいるものの、履修者のいない科目についても上表に含めること。

5 専任教員の給与

(表23)

学部・研究科		専任教員俸給額(年収) (円)			
		教 授	准 教 授	講 師	助 教
看護学部	最 低	7,905,900	6,491,166	5,392,634	—
	平 均	9,739,615	7,686,859	6,090,142	—

- [注] 1 本「大学基礎データ」作成前年(2006年)1月から12月の1年間を対象として作成すること。
 2 年収は、諸手当を含めた前年の支給総額を記入すること。
 3 原則として「IV 1 全学の教員組織」(表19)に掲げた組織の順に作成すること。
 4 「最低」、「平均」の記入にあたっては、上記1の期間の途中で採用及び退職した者を除くこと。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績 別冊

専任教員の過去5年間の業績をカバーした大学・学部等の固有の業績一覧を提出すること。

大学で固有の業績一覧等を作成していない場合、また、固有の業績一覧に「Ⅰ 教育活動」、「Ⅱ 研究活動」、「Ⅲ 学会等および社会における主な活動」のいずれかに関する記載が欠ける場合には、下記の表を参考に未充項目の業績一覧を別途作成すること。

(表24)

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有・無)		
Ⅰ 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び 巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「Ⅳ 1 全学の教員組織」(表19)中、学部、大学院研究科(及びその他の組織)に記載の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成すること。

2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成すること。

3 教員の配列は、「Ⅳ 2 専任教員個別表」(表20)の順序によること。

4 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

5 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
- ⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについては（表25）に従って作成すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

2 専任教員の教育・研究業績（芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員） 該当なし

(表25)

		所属	職名	氏名	
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等		

3 学術賞の受賞状況

(表26)

学部・研究科等	学術賞の受賞数					
	2004年度		2005年度		2006年度	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外
看護学部	—	—	—	—	—	—
看護学研究科	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

- [注] 1 教員が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 学内の複数の教員の共同研究の成果が受賞した場合は、重複して記載しないこと。
 3 ここでいう学術賞は全国レベルの学会もしくは国際的レベルの学会等によるものに限ること。
 4 教員の前任の大学での成果については、含めないこと。

4 特許出願・登録状況

(表27)

学部・研究科等	出願件数			登録件数		
	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
看護学部	—	—	—	—	—	—
看護学研究科	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

- [注] 1 教員が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
2 教員の前任の大学での成果については、含めないこと。

5 産学官連携による研究活動状況

(表28)

学部・研究科等		2004年度		2005年度		2006年度	
		共同研究の件数	受託研究の件数	共同研究の件数	受託研究の件数	共同研究の件数	受託研究の件数
看護学部	新規	—	—	—	—	—	—
	継続	—	—	—	—	—	—
看護学研究科	新規	—	—	—	—	—	—
	継続	—	—	—	—	—	—
計	新規	—	—	—	—	—	—
	継続	—	—	—	—	—	—

- [注] 1 教員が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
- 2 本表における「共同研究」とは、民間企業等から研究者と研究経費を受け入れて、大学の教育研究職員と共通の課題について共同で行う研究をさす。学内共同研究は含めないこと。また、「受託研究」とは、民間企業、自治体等からの受託に基づき、専ら大学の教育研究職員が行う研究をさす。
- 3 複数の学部・学科が共同で産学官連携の研究活動を行っている場合は、重複して記載しないこと。
- 4 複数年にわたる研究については、初年度を「新規」欄に、次年度以降を「継続」欄に記入すること。

6 専任教員の研究費

(表29)

学部・研究科等	総額 (A)	総額 (B) (除、講座・研究室 等の共同研究費)	専任教員数 (C)	教員1人 当たりの額 ① (A/C)	教員1人 当たりの額 ② (B/C)	備考
看護学部	10,150,309	9,200,298	38	267,113	242,113	
計	10,150,309	9,200,298	38	267,113	242,113	

[注] 1 2006年度の実績をもとに作表すること。したがって「専任教員数」欄にも、2006年度の人数（助手を含む）を記入すること。

2 研究費総額 (A) には、学科、研究室等ごとに支給される研究費も含めて記入すること。ただし、間接経費（水道光熱費、人件費等）は除くこと。また、競争的な研究費も含めないこと。

3 研究費総額 (B) には、講座研究費、個人研究費等の名称は問わず、教員個人が専らその研究の用に充てるために支給される経常的経費（図書購入費、機器備品費、研究用消耗品費、アルバイトなどへの謝金等）を記入すること。

4 本表における専任教員数は（表30）および（表34）と一致する。

7 専任教員の研究旅費

(表30)

学部・研究科等		国外留学		国内留学 長期	学会等出張旅費		備 考
		長期	短期		国外	国内	
看護学部	総 額	—	—	—	4,749,431	3,157,238	専任教員数 38 人
	支 給 件 数	—	—	—	16	40	
	1人当たり支給額	—	—	—	124,985	83,085	
計	総 額	—	—	—	4,749,431	3,157,238	専任教員数 38 人
	支 給 件 数	—	—	—	16	40	
	1人当たり支給額	—	—	—	124,985	83,085	

[注] 1 2006年度の実績をもとに作表すること。したがって「専任教員数」欄にも、2006年度の人数（助手を含む）を記入すること。

2 「1人当たりの支給額」欄には、総額を当該学部の当該年度の専任教員数で割って算出した額を記入すること。

3 教員研究旅費には、前表「6 専任教員の研究費（実績）」（表29）は含まないこと。

4 それぞれの研究旅費の支給条件（例えば、受給資格、支給額の上限等）を欄外に注記すること。

5 留学の「長期」とは、1年以上のものをいい、1年未満を「短期」とする。

6 本表における専任教員数は（表29）および（表34）と一致する。

[大学注記] 研究旅費の支給条件は公務と認められる出張について本学旅費規程により支払われる。

8 学内共同研究費

(表31)

大学・学部・大学院研究科等	総 額	利用件数	備 考
看護学部	1,093,311	8	
計	1,093,311	8	

- [注]
- 1 2006年度の実績を記入すること。
 - 2 ここでいう「学内共同研究費」とは、予算上措置されている研究費で、個人研究・共同研究を問わず、申請に基づき審査を経て交付される競争的な研究費（いわゆる学内科研費）を指す。
 - 3 研究費に旅費が含まれている場合、これをのぞく必要はない。
 - 4 総額の合計は、教員研究費内訳（表32）中の学内共同研究費の合計と一致する。

9 教員研究費内訳

(表32)

学部・研究科等	研究費の内訳	2004年度		2005年度		2006年度	
		研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)
	研究費総額	54,136,736	100%	43,495,203	100%	46,017,809	100%
学内	学 經常研究費 (教員当り積算校費総額)	15,009,459	27.7	12,774,747	29.4	9,056,498	19.7
	学内共同研究費	5,259,277	9.7	3,520,456	8.1	1,093,311	2.4
	その他	—	—	—	—	—	—
学外	科学研究費補助金	7,500,000	13.9	11,700,000	26.9	8,800,000	19.1
	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	26,368,000	48.7	15,500,000	35.6	15,500,000	33.7
	民間の研究助成財団等からの研究助成金	—	—	—	—	5,210,000	11.3
	奨学寄附金	—	—	—	—	—	—
	受託研究費	—	—	—	—	—	—
	共同研究費	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	6,358,000	13.8

[注] 1 学内研究費の「その他」欄には、經常研究費、学内共同研究費（競争的研究費）以外に該当するものがある場合は記入すること。

10 科学研究費の採択状況

(表33)

学部・研究科等	科 学 研 究 費								
	2004年度			2005年度			2006年度		
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100
看護学部	10	2	20.0	7	2	28.6	12	0	0.0
計	10	2	20.0	7	2	28.6	12	0	0.0

- [注] 1 教員、助手が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。

11 学外からの研究費の総額と一人当たりの額

(表34)

学部・研究科等	専任 教員数	科学研究費補助金			その他の学外研究費			合 計 (A+B)	専任教員1人 当たり合計額
		科学研究費補 助金総額 (A)	うちオーバ ーヘッドの額	専任教員1人 当たり科研費	その他の学外研 究費総額 (B)	うちオーバ ーヘッドの額	専任教員1人当 たり学外研究費		
看護学部	38	0	0	0	11,568,000	0	0	11,568,000	304,421
合 計	38	0	0	0	11,568,000	0	0	11,568,000	304,421

- [注] 1 教員が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 2006年度の実績をもとに作表すること。したがって「専任教員数」欄にも、2006年度の人数（助手を含む）を記入すること
 3 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、共同研究費などが該当する。
 4 採択件数は、当該年度における新規採択のみであり継続分は含めないこと。
 5 本表における専任教員数は本大学基礎データ作成前年度の教員数であり、（表29）および（表30）と一致する。

12 教員研究室

(表35)

学 部 研究科	室 数			総面積 (㎡)	1室当たりの平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率(%) (A/B*100)	教員1人当たりの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
看護学部	22	7	29	712.0	21.4	34.4	42	52.4	17.0	2人部屋 12人 共同部屋 8人
計	22	7	29	712.0	21.4	34.4	42	52.4	17.0	

- [注] 1 「室数」、「総面積」欄には、学部、大学院研究科等の保有する全ての教員研究室についてこれを記入すること。
- 2 「1室当たりの平均面積」は全ての教員研究室について、「教員1人当たりの平均面積」は、学部、大学院研究科等の専任教員が実際に使用している教員研究室について算出すること。
- 3 「個室率」の算出にあたっては、個室数が専任教員数を上回る場合は、原則として100%と記入すること。
- 4 個室を持たない教員については、「備考」欄にその数を記入すること。

VI 施設・設備等

1 校地、校舎、講義室・演習室等の面積

(表36)

校 地 ・ 校 舎				講義室・演習室等	
校地面積 (m ²)	設置基準上必要 校地面積 (m ²)	校舎面積(m ²)	設置基準上必要 校舎面積 (m ²)	講義室・演習室・ 学生自習室総数	講義室・演習室・ 学生自習室 総面積 (m ²)
48,186m ²	4,200m ²	13,363m ²	5,057m ²	20	1,419m ²

[注] 1 校舎面積に算入できる施設としては、講義室、演習室、学生自習室、実験・実習室、研究室、図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室（含記録庫）、会議室、受付、守衛室、宿直室、倉庫）、学生集会所、食堂、廊下、便所などが挙げられる。

2 講堂を講義室に準じて使用している場合は「講義室・演習室・学生自習室」に含めてもよい。

3 複数のキャンパスを設置している場合は、キャンパスごとに作表すること。

2 学部・大学院研究科等ごとの講義室、演習室等の面積・規模

(表37)

学部・研究科等	講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数 (B)	在籍学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
看護学部	講義室	8	797	専用	700	471	1.69	
	演習室	10	519	専用	160	471	1.10	
	実験室	1	105	専用	48	471	0.22	
	LL教室・情報処理室	2	299	専用	128	471	0.63	
	学生自習室	—	—	—	—	—		
研究科	講義室	2	104	専用	80	11		
	情報処理演習室	1	27	専用	20	11		
	学生自習室	—	—	—	—	—		
	体育館	1	1,340	専用				
	講堂	1		共用				

[注] 1 学部、大学院研究科ごとに記載すること。

2 当該施設を複数学部、短期大学等が共用している場合には、当該学部・大学院研究科専用の施設とは別個に記載し、「専用・共用の別」欄にその旨を明記するとともに、「学生総数」欄にも共用する学部、短期大学等の学生を含めた数値を記入すること。ただし、大学院研究科との共用関係については、ここには記入しないこと。したがって「在籍学生1人当たり面積」の算出に当たっても、大学院学生数は除くこと。

また、「在籍学生1人当たり面積」の算出には、昼夜開講制の場合の夜間主コースの学生数や固有の施設を持たない2部（夜間部）の学生数は含めないこと。

3 キャンパスごとに施設を共用している場合は、「学部・研究科等」欄にキャンパス名を記入すること。

4 全学で全ての施設を共用している場合は、「学部・研究科等」欄に「全学共通」と記入すること。

5 教養教育のための専用施設がある場合は、学部に準じて記載すること。

6 「在籍学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで求めること。

7 他学部等と共用で使用している講義室・演習室等の「在籍学生1人当たりの面積」の算出に当たっては、当該施設を利用しているすべての学部の学生数（短期大学と共用している場合は、短期大学の学生数を含む）で総面積を除して算出すること。

3 学部の学生用実験・実習室の面積・規模

(表38)

用途別室名	室数	総面積 (㎡)	収容人員 (総数)	収容人員1人当 たりの面積(㎡)	使用学部等	備考
LL教室	1	151	60	2.5	看護学部	
情報処理教室	1	148	68	2.2	看護学部	
看護実習室	3	712	400	1.8	看護学部	
調理実習室	1	150	48	3.1	看護学部	
実験室	1	105	48	2.2	看護学部	
計	7	1,266	624	2.0		

[注] 1 原則として学部ごとにまとめること。

2 「用途別室名」欄には、その施設の用途が具体的にわかるような名称を記入すること。

3 当該施設を複数学部もしくは併設の短期大学と共用している場合は、その学部名等のすべてを「使用学部等」欄に記載し、本表において同一施設を重複して記載しないこと。

4 語学学習施設・情報処理学習施設、ビデオ・オーディオルームその他の視聴覚教室施設等も、ここに記入すること。

5 教養教育のための施設については「使用学部等」欄にその旨記入すること。

6 実習室としての機能を備えているものの、講義室・演習室等としての利用が中心である施設については、前表「2 学部・大学院研究科等ごとの講義室、演習室等の面積・規模」(表37)の講義室・演習室に含めてもよい。その場合は、当該施設の本表での記載に当たっては、「備考」欄に必ず「【再掲】」と記入すること。

7 実験・実習室の主な設備・機器の設置とその更新状況については、点検・評価報告書に記載すること。

4 大学院研究科の学生用実験・実習室の面積・規模 (該当なし)

(表39)

用途別室名	室数	総面積 (㎡)	収容人員 (総数)	収容人員1人当たりの面積 (㎡)	使用研究科等	備考
計						

[注] 1 原則として研究科ごとにまとめること。

2 「用途別室名」欄には、その施設の用途が具体的にわかるような名称を記入すること。

3 当該施設を他研究科もしくは学部等と共用している場合は、その研究科、学部名等を「使用研究科等」欄に記載し、本表において同一施設を重複して記載しないこと。

4 前2表「2 学部・大学院研究科等ごとの講義室、演習室等の面積・規模」(表37)、「3 学部の学生用実験・実習室の面積・規模」(表38)に記載の実験・実習室等を本表に記載する場合については、「備考」欄に「【再掲】」と記入すること。

5 実験・実習室の主な設備・機器の設置とその更新状況については、点検・評価報告書に記載すること。

5 規模別講義室・演習室使用状況一覧表

(表40)

学 部 名	収 容 人 員	使用教室数	総授業時数	使用度数	使用率 (%)	備 考
看護学部	1 ～ 20	12	1,605	60	3.7	
	21 ～ 50	2		60	3.7	
	51 ～ 80	4		360	22.5	
	81 ～ 140	3		1,125	70.1	
計		21		1,605	100.0	

[注] 1 原則として学部ごとに作成すること。

2 使用教室数は、当該学部の正規の授業として使用している教室数を指し、総授業時数とは、1週間の総授業科目のうち、講義室・演習室を使用する全ての授業科目数を示す。なお、使用率は、(使用度数/総授業時数)により算出する。

3 セメスター制を採用している場合で、使用状況が大きく異なる場合については、セメスターごとに作表すること。

VII 図書館および図書・電子媒体

1 図書、資料の所蔵数

(表41)

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の所蔵数 (点数)	電子ジャーナルの種類 (種類)	備考
	図書の冊数	開架図書の冊数 (内数)	内国書	外国書			
本館	29,772	26,456	417種類	80種類	862種類	570種類	
計	29,772	26,456	417種類	80種類	862種類	570種類	

[注] 1 雑誌等ですでに製本済のものは図書の冊数に加えてよい。

2 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めること。

3 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記すること。

4 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載すること。

2 過去3年間の図書の受け入れ状況

(表42)

図書館の名称	2004年度	2005年度	2006年度
本館	3,324	2,339	1,989
計	3,324	2,339	1,989

3 学生閲覧室等

(表43)

図書館の名称	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の学習室 の座席数 ()	備 考
	座席数 (A)				
本館	109	420	25.9	—	(B) 学生収容定員内訳 学部 400名 大学院 20名
計	109	420	25.9	—	

- [注] 1 「学生収容定員」には、学部学生、大学院学生、専攻科、別科の学生収容定員のほか、当該施設を短期大学と共用している場合には、短大の学生収容定員もこの数に加えること。
- 2 「その他の学習室」の具体的名称を「その他の学習室の座席数」欄のカッコ内に記入すること。
- 3 「備考」欄には学生収容定員 (B) の内訳を、学部、大学院、専攻科、別科、短期大学ごとに記入すること。

VIII 学生生活

1 奨学金給付・貸与状況

(表44)

奨学金の名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	支給対象学生数(A)	在籍学生総数(B)	在籍学生数に対する比率 $A/B*100$	支給総額(C)	1件当たり支給額 C/A
日本赤十字九州国際看護大学学業奨励賞	学内	給付	1	467	0.2	200,000	200,000
日本赤十字九州国際看護大学奨学金	学内	貸与	0	467	0.0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学助成金 国際ソロプチミスト福岡・夢を生きるSI福岡賞	学外	給付	1	467	0.2	300,000	300,000
日本赤十字社福岡県支部奨学金	学外	貸与	24	467	5.1	14,400,000	600,000
日本赤十字社佐賀県支部奨学金	学外	貸与	8	467	1.7	4,800,000	600,000
日本赤十字社長崎県支部奨学金	学外	貸与	12	467	2.6	7,200,000	600,000
日本赤十字社熊本県支部奨学金	学外	貸与	17	467	3.6	10,600,000	623,529
日本赤十字社大分県支部奨学金	学外	貸与	5	467	1.1	3,000,000	600,000
日本赤十字社宮崎県支部奨学金	学外	貸与	3	467	0.6	1,800,000	600,000
日本赤十字社鹿児島県支部奨学金	学外	貸与	4	467	0.9	4,400,000	1,100,000
日本赤十字社沖縄県支部奨学金	学外	貸与	4	467	0.9	4,400,000	1,100,000
日本赤十字社山口県支部奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	600,000	600,000
日本赤十字社島根県支部奨学金	学外	貸与	2	467	0.4	1,200,000	600,000
福岡赤十字病院奨学金	学外	貸与	19	467	4.1	11,400,000	600,000
嘉麻赤十字病院奨学金	学外	貸与	3	467	0.6	1,800,000	600,000
高松赤十字病院奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	600,000	600,000
長浜赤十字病院奨学金	学外	貸与	2	467	0.4	1,200,000	600,000
日赤和歌山医療センター奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	600,000	600,000
横浜市立みなと赤十字病院奨学金	学外	貸与	2	467	0.4	1,200,000	600,000
武蔵野赤十字病院奨学金	学外	貸与	6	467	1.3	3,600,000	600,000

日赤医療センター奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	600,000	600,000
日本赤十字社看護師同方会奨学資金	学外	貸与	9	467	1.9	1,800,000	200,000
日本学生支援機構奨学基金	学外	貸与	220	467	47.1	171,732,000	780,600
福岡県教育文化財団奨学金	学外	貸与	9	467	1.9	7,560,000	840,000
佐賀県育英会	学外	貸与	1	467	0.2	756,000	756,000
宮崎県育英資金	学外	貸与	2	467	0.4	1,512,000	756,000
鹿児島県育英財団奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	756,000	756,000
山口県ひとつくり財団奨学金	学外	貸与	2	467	0.4	1,236,000	618,000
鳥取県修学資金	学外	貸与	2	467	0.4	1,464,000	732,000
電通育英会奨学金	学外	貸与	3	467	0.6	1,440,000	480,000
あしなが奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	600,000	600,000
交通遺児育英会奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	720,000	720,000
ニキビ育英会奨学金	学外	貸与	1	467	0.2	168,000	168,000

[注] 1 2006年度実績をもとに作表すること。

2 学部・大学院共通、学部対象、大学院対象の順に作成すること。

3 当該奨学金が学部学生のみを対象とする場合は、「在籍学生総数」欄には学部学生の在籍学生総数を、大学院学生のみを対象とする場合は、大学院の在籍学生総数を記載すること。

4 日本学生支援機構による奨学金も記載すること。

2 生活相談室利用状況

(表45)

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	週当たり 開室日数	年間 開室日数	開室時間	年間相談件数			備 考
						2004年度	2005年度	2006年度	
学生相談室	0	3	/	/	/	29	115	109	①診療内科医 ②臨床心理士 ③カウンセラー (ボランティア)

[注] 1 専任、非常勤ごとに、スタッフの種類（医師、資格を持ったカウンセラー、教員、職員等）を備考欄または欄外に記載すること。

2 年間相談件数は、延べ数を記載すること。

3 非常勤スタッフ3名のうち、心療内科医及び臨床心理士の2名については委嘱契約を締結し、契約の範囲内において月1回～月2回勤務。
カウンセラーの資格を有する非常勤スタッフ1名（ボランティア）については、不定期勤務。

4 注3～4の勤務日（相談日）については、学生へ事前告知し、相談は完全予約制。

IX 財 務

1-1 消費収支計算書関係比率（法人全体のもの） ※私立大学のみ

(表46-1)

	比 率	算 式 (*100)	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	備 考
1	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	% 31.7	% 43.5	% 34.2	% 58.0	% 54.5	
2	人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	89.1	80.3	75.9	74.3	72.7	
3	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	17.4	27.1	21.6	38.0	36.7	
4	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	3.0	4.3	6.3	6.7	5.9	
5	借 入 金 等 利 息 比 率	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
6	消 費 支 出 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	52.6	75.1	63.7	104.8	103.2	
7	消 費 収 支 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{消 費 収 入}}$	56.8	156.5	122.7	106.1	104.7	
8	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	35.6	54.1	45.0	78.1	75.0	
9	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	54.8	23.3	44.2	2.8	5.4	
10	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	7.7	19.8	8.6	14.8	13.9	
11	基 本 金 組 入 率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	7.5	52.0	48.1	1.2	1.4	
12	減 価 償 却 費 比 率	$\frac{\text{減 価 償 却 費}}{\text{消 費 支 出}}$	16.5	16.0	18.3	18.5	16.9	

[注] 本表(表46-1)については、「学校法人会計基準」に基づく財務計算書類中の消費収支計算書(法人全体のもの)を用いて、表に示された算式により過去5年分の比率を記入すること。

なお、法人として当該大学のみを運営している場合は、(表46-1)のみを作表のこと。ただし、医・歯学部等で附属病院を併設している場合は、次表(表46-2)も作成すること。

1-2 消費収支計算書関係比率（大学単独のもの） ※私立大学のみ

（表46-2）

	比 率	算 式 (*100)	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	備 考
1	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	% 57.8	% 77.6	% 48.4	% 52.8	% 51.5	
2	人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	98.3	80.8	64.6	59.3	60.3	
3	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	37.4	45.8	27.8	31.7	34.1	
4	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	10.1	12.4	7.6	9.4	7.6	
5	借 入 金 等 利 息 比 率	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
6	消 費 支 出 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	106.2	137.2	85.0	96.7	94.4	
7	消 費 収 支 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{消 費 収 入}}$	112.4	144.9	87.3	96.9	95.0	
8	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	58.9	96.1	74.8	89.1	85.4	
9	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	36.3	0.4	22.4	0.2	0.1	
10	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	1.2	0.0	0.0	7.8	11.3	
11	基 本 金 組 入 率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	5.5	5.3	2.6	0.2	0.6	
12	減 価 償 却 費 比 率	$\frac{\text{減 価 償 却 費}}{\text{消 費 支 出}}$	22.5	21.2	20.7	21.2	21.6	

[注] 本表（表46-2）については、「学校法人会計基準」に基づく財務計算書類中の消費収支計算書（大学単独のもの）を用いて、表に示された算式により過去5年分の比率を記入すること。

2 貸借対照表関係比率（私立大学のみ）

（表47）

	比 率	算 式（*100）	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	備 考
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	% 79.1	% 86.0	% 87.3	% 88.9	% 87.5	
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	20.9	14.0	12.7	11.1	12.5	
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	1.6	1.7	1.7	1.9	2.0	
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	2.7	4.3	3.6	3.2	3.4	
5	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	95.7	94.1	94.6	94.9	94.6	
6	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	16.1	10.2	6.9	7.0	8.5	
7	固 定 比 率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	82.7	91.4	92.3	93.7	92.5	
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	81.3	89.8	90.6	91.9	90.5	
9	流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	773.4	329.5	349.0	343.6	370.6	
10	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	4.3	5.9	5.4	5.1	5.4	
11	負 債 比 率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	4.5	6.3	5.7	5.4	5.7	
12	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	958.3	587.4	792.6	701.3	825.7	
13	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	75.5	76.7	80.0	84.7	82.0	
14	基 本 金 比 率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.2	88.8	274.9	241.1	-572.4	
15	減 価 償 却 比 率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	15.7	15.9	17.8	20.0	20.1	

[注] 1 本表については、「学校法人会計基準」に基づく財務計算書類中の貸借対照表を用いて、表に示された算式により過去5年分の比率を記入すること。

2 「総資金」は負債＋基本金＋消費収支差額を、「自己資金」は基本金＋消費収支差額をあらわす。

X I 情報公開・説明責任

1 財政公開状況について

(表48)

		自己点検・ 評価報告書	学内広報誌	大学機関紙	財務状況に 関する報告書	学内LAN	ホームページ (Web等)	その他 ()	開示請求があれ ば対応する
教職員	資金						○		
	消費						○		
	貸借						○		
在学生	資金						○		
	消費						○		
	貸借						○		
卒業生	資金						○		
	消費						○		
	貸借						○		
保護者	資金						○		
	消費						○		
	貸借						○		
社会・一般 (不特定多数)	資金						○		
	消費						○		
	貸借						○		
その他 ()	資金								
	消費								
	貸借								

[注] 1 2006年度決算について2007年度中に公開した対象・方法をすべて記入すること。

2 私立大学の場合は資金収支計算書(資金)・消費収支計算書(消費)・貸借対照表(貸借)について、国・公立大学の場合は自大学の財務状況について、それぞれの情報公開の実施方法に関して、該当欄へ対象者ごとに○を付すこと。

3 各対象者への財政公開を行っていないが開示請求があれば対応するという場合には、「開示請求があれば対応する」欄に○を付すこと。

4 「その他」欄を利用して回答する場合は、カッコ内に具体的な名称を記入すること。

5 2007年度決算の公開対象・方法が変更される予定の場合には、欄外に注記すること。なお、その場合、公開した時点で該当する資料を提出すること。